

年頭のご挨拶



農業委員長
松永 晋一

明けましておめでとうございませう。皆さまにはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

前年も気象変動の大きな一年となり、野菜は収量の減少や価格の変動が大きくなりました。

また、水稲においては、6月の降雨続きで茎数が少なめとなり、8月、9月の日照不足が登熟に影響し、作況指数「97」のやや不良となりました。

新型コロナウイルスは、第5波感染拡大による移動制限やオンラインピックの無観客開催、インバウンドの消滅など各方面に多くの影響を与え、経済活動が大幅に落ち込みました。農業分野でもイベントや外食の落ち

込みにより、牛肉・花・業務用米を中心に大きな影響を受け、米の概算金も大きく低下し、担い手の経営を直撃しています。

米は、21年産米の作況をふまえ、予想収穫量700万7千トンで適正生産量693万トンを上回り、適正在庫200万トンに対し217万トンで1%上回ります。一方、緊急事態宣言解除・オミクロン株の拡大懸念など、直近の動向を見極めて22年度の適正生産量が675万トンに設定されました。これを受け飯山市には前年比3.5%減の6300トン(面積41.6畝減)が配分されました。

近いうちに各生産者へ配分量が示されますが、依然として米価の下げ圧力が強まっているこの時期、皆が協力し、米価を維持していくことが強く求められています。

東アジア域包括的経済連携(RCEP)協定はASEAN10カ国と日本・中国・韓国・オーストラリア、

ニュージーランドが参加し、発効にはASEANのうち6カ国以上とその他3カ国以上が国内手続きを終える必要があります。現在、日本、中国、オーストラリアなど国内手続きを終えており1月1日に発効します。TPPより影響が少ないと言われていますが、中国や韓国から農産物輸入の増大に今後注目していく必要があります。

コロナ禍の中で、食料安全保障が注目されましたが、国内農業を維持発展させ自給率を向上する国の施策が望まれます。

農業委員会の重要業務として、優良農地の確保と効率的な利用の促進に取り組み、担い手への農地の集積・集約化等農地の活用を促進することが法制化されています。このため、現在制定されている「人・農地プラン」の実質化の取り組みと実践を全農業委員会で行うこととなっています。

高齢化が進行する中、地域関係者の参加を得て農

地の集積や地域作り方針の話し合いを進めます。また、新型コロナウイルスの影響で訪問活動の制約を受けました。農業委員・農地利用最適化委員が地区の実態を把握し、個々の目標を定め推進活動を展開しますので、農地のことは何でも遠慮なくご相談ください。本年も、農政諸課題について、農業委員会組織を挙げて真に農業・農村の発展になるよう、引き続き運動を継続してまいりますので、各位のご指導ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

令和4年から農業者年金制度が改正されます

- Point 1**
令和4年1月から
若い農業者が加入しやすいよう保険料が引き下げられます
35歳未満で要件を満たす方は、月額1万円から加入できます。
- Point 2**
令和4年4月から
農業者年金の受給開始時期の選択肢が広がります
年金の受給要件を満たした方は、受給開始時期をご自身で選択できます。
- Point 3**
令和4年5月から
農業者年金の加入可能年齢が65歳に引き上げられます
60歳以上65歳未満で、国民年金の任意加入者であり、農業に従事(年間60日以上)している方に限ります。

お問い合わせは、農業委員または農業委員会事務局へ

あしあと 11・12月 の活動記録	11月10日	農業委員会役員会	12月10日	農業委員会役員会
	16日	長野県農業委員会大会	〃	農地相談
	26日	管内研修視察	23日	12月農業委員会総会
	〃	11月農業委員会総会		

研修視察報告

飯山市農業委員会

情報委員会 小林喜代春

【棚田の杜 ほくずい】

初雪迫る11月26日、農業委員会は市内4カ所の研修視察を行いました。最初の視察地は、昼食を兼ねて瑞穂柏尾地区「棚田の杜ほくずい」。旧北瑞保育園を市から借り受け、一般社団法人 飯山そば振興研究会が令和3年7月蕎麦店としてリニューアルしました。初めて訪れるには少しわかりにくいですが、閑静な場所で駐車場も広く、利便性も良い。昼食の前、担当の前澤氏より詳しくお話を伺いました。「飯山雪室熟成そば」とは、地元飯山の農地で育てたそばを、飯山市が保有する雪室で「玄そば」を3カ月以上熟成したそばで、夏場でも甘みと風味をしっかりと味わえます。東京での試食会でもとても好評とのことでした。

飯山そば振興研究会は、「北信州No.1のそばブランドの確立」を目指して、平成29年12月に設立。遊休荒廃農地26ヘクタールをそば栽培の畑として借り受け、年々その面積は拡大しており、今後も荒廃農地解消の点でも大きな期待が寄せられています。また、そばの打ち手育成にも力を入れていて、本年度は19名の受講者が頑張っているとのことでした。課題は、そば粉の販売で、県内外から大勢の人に「飯山雪室熟成そば」を食べに来ていただくことが一番の収益に繋がるとのことでした。

今回は「雪室御膳」(そば+季節の天ぷら+笹寿司+デザート)をいただきました。細く喉越しも良く甘みや香りもしっかりとした美味しいそばと、当地の名物「笹寿司」も付いて納得の昼食でした。

【オープンラボ じねんぼう】

次に向かったのは、瑞穂小菅地区の未来社会推進機構「オープンラボ じねんぼう」という施設。副理事長の出澤氏よりお話を伺いました。「未来社会推進機構」とは消えつつある農村・自然を守り、未来に引き継ごうという思いが込められています。建物は建設会社の事務所をリノベーションし、1階は売店、カフェ風のオープンスペース、2階は会議室、セミナー等にも使えるスペース、建物の裏には畑があります。四季を通して農業体験ができ、ケーキ、パンは米粉を使い、米の消費拡大にも努めています。市内が一望できる畑からの景観は抜群で、気軽に立ち寄れます。今後の活動が楽しみな施設でした。

【雪室 (ゆきむろ)】

次に向かったのは、長峰にある雪室です。雪を使った冷温倉庫で「飯山雪室熟成そば」の玄そばを貯蔵しています。電気等は一切使わず、2月頃の多雪期間に大量の雪を運び入れ、庫内は年間1~3℃湿度100%に保たれています。庫内はかなり広く、11月の末でも真冬のように肌寒く、運び入れた雪も残り、清酒、そば、米など、熟成すると美味しくなるといいます。「飯山市雪エネルギー検討会議」では、脱炭素チャレンジカップ2021にエントリーし、「飯山雪室」は見事、文部科学大臣賞を受賞しています。

【MOSTO FARM合同会社】

最後の視察は太田地区にある「MOSTO FARM合同会社」。大麦栽培プロジェクトリーダーの小塚氏を中心に、会社の近くの農地では、積雪地でも栽培可能な大麦の栽培研究に取り組んでいます。また、今年は柳原地区の3.5ヘクタールに大麦を作付けし、来年初夏の収穫を見込んでいます。大麦の栽培には、水はけの良い傾斜地が向いており、中山間地の遊休荒廃農地の解消や、飯山の新たな特産物誕生の可能性があり、今後も注視していきたいと思っております。



▲棚田の杜ほくずい 雪室御膳



▲オープンラボじねんぼう



▲雪室



▲雪室庫内は、年間1~3℃



▲大麦栽培研究の様子